



「叔父への手紙」

(癌末期の叔父にあてたある牧師の手紙です)

ずっと叔父さんにお手紙を書こうと思いつきながら、何回か書き始めたものの今になってしまいました。その後、お具合はいかがですか。

振り返って見た時、叔父さんとの思い出で一番印象的だったのは小学生の頃、ブルーバードに乗せてもらってお城にドライブに行ったことです。しかしここ最近の思い出となると6年前にそちらに寄せていただいた際、叔父さん一家と我が家全員で記念撮影した時に叔父さんが私に仰ってくださったことが心に残っています。

確か「君たち宗教家にもっとしっかりしてもらわなければならない」との内容でした。医者である叔父さんが、医師の仕事に加えて、人々の心のニーズに応えて行かなければならず、大変なのだ、という状況をいろいろ説明して下さったのを覚えています。今でもそのお言葉、とても大切にしています。人々には宗教的(存在論的)ニーズが現実にあるのだ、ということ、叔父さんがはっきりと言って下さったことは私にとって今でも大きな励みとなっています。

私は伯父さん、伯母さんが医者であることを本当に誇りに思っています。叔父さんたちが今までして来られた仕事は「愛の奉仕」と言った方が的を射ていると思います。叔父さんたちに助けられた多くの方々もお二人の働きに本当に感謝しておられることでしょう。叔父さんたちの働きについて私は聖書のこの言葉を思い出します。

「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」マタイ25:40

キリストの言葉なのですが、人に対するどんな奉仕も、どんな親切も、究極的には神であるキリストに対するものである、という意味です。私は、叔父さんが患者さんのためにして来られた一つ一つの愛の奉仕を神も一つ一つ覚えて下さっていることを確信しています。神は叔父さんに「よくやった」と褒美を与えたいと願っていらっしゃるのです。

しかしその前に一つだけ、神も叔父さんのためにしてあげたいことがあると仰っているのです。叔父さんが患者さんの患いをいやしたのと同じように、神も叔父さんの魂の患い、つまり罪の問題を処理し治療してあげたい、と願っておられるのです。キリストは次のように言いました。

「医者を必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招くために来たのです。」マルコ2:17

キリストは魂の医者であり、私たちの罪の問題を解決するために来たというのです。またこうも言われました。

「わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。」ヨハネ10:11

これは私たちの心の内にある、神に対する反抗心や他人を傷つける自己中心の罪などに対して、私たちが当然受けなければならない刑罰を、キリストが代わりに十字架で受けて下さった、という意味なのです。叔父さんは今まで、それこそ粉骨砕身、人の病をいやすため、ご自分の命を使って来られたと思いますが、キリストも罪深い私たちが赦され、救われるために喜んで命を捧げて下さったのです。

叔父さんの患者さんの中にも恐らく素直でない方もいらしたことでしょう。医師にとり、患者に信頼してもらうこと、患者に素直でいてもらうことは最も大切なことであつたかと思いますが、同じことが神と私たちとの関係でも言えるのです。神が差し出して下さっている叔父さんへの治療を素直に感謝して受け入れられるなら、聖書の約束通り、必ず魂の救いを得て、天国へ迎え入れていただけます。そればかりか、神さまからの新しい命を得ることができるのです。

「私たちは、キリストに代わって、あなたがたに願います。神の和解を受け入れなさい。神は、罪を知らない方(キリストの意)を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義(神の前で罪なきもの、まったきものという意味)となるためです。」2コリント5:20-21

私が「宗教家」として語り続けていることのエッセンスは今申し上げたことです。神には本当に人を救い、作り替える力があるのです。日本ではなかなかこのメッセージを受入れてもらえない状況が続いていますが、今なお、世界中で大勢の人がこのメッセージを信じて救われ、人生が変えられて行っています。私も多くの人が十字架を信じて人生が変えられていくのを見てきました。叔父さんも神さまの愛を受け入れて下さいますよう、心よりお祈りしています。

尊敬を込めて 甥より

「イースターの恵み」 N.I. さん (グリニッチ教会OB)

私が洗礼を受けたのは2003年の夏、36歳の時でした。個人宅のプールをお借りしての洗礼式でした。私たち一家がグリニッチ教会に行くようになったのは2001年のイースターのエッグハンティングの催しに興味を持ったからです。子供の良い思い出という感じで参加したのですが、当時近藤泉先生のメッセージを聞いて、また来週も来ようと思ってしまうました。それから毎週日曜には教会に行くようになりましたが、教会の皆さんに心を開くこともなく、私自身居づらい気持ちもあるのですが、先生のお話を聞き終わると、また来週も来ようという気になるのです。そのうちにハリソン聖研

に参加するようになって、ようやく私の居場所ができたと思えました。近藤先生やM姉にとって私はどんな求道者だったかなと思うと恥ずかしい限りですが、ここでの学びは本当に私の宝物です。毎回出席するかどうかとも怪しい、いい加減な私でしたが、行きは渋々、帰りはスキップというほど心に変化がありました。この聖研で出会った二つの聖書の言葉が大きなワンステップになりま



した。一つは「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」です。ある日心の奥でかすかなブザーがなりました。どういふ状況だったか思い出せないのですが、愛せていないという事を示され、ほんの小さな痛みを感じました。また別の日に学んだヨハネ 14:6 の「…わたしを通してでなければ、だれひとり父(神)のみもとに来ることはありません。」というイエス様の宣言にはかなりの反発心を抱きました。ある日近藤先生に、いろんな宗教を通して極めればひとつの神に至るのではないかと質問しました。しかし近藤先生のお答えは逆質問でした。死んで舞台の幕が開いたとき、違っていたらどうします？ 私はそれから生きている間に本当の事が知り

たいと願うようになりました。そして3人目の妊娠をきっかけにいよいよ自分の醜さ、弱さと直面し、つわりの真只中、イエス様に助けを求めました。たった一言、助けてください、つわりが辛いですというものでしたが、即座に十字架にかかったイエス様が祈られたその場面が浮かび、この方を私の主としていきたいと思いました。(ルカ 23:34) 受洗後は立石先生ご夫妻には本当にお世話になりました。私たち夫婦の事では当時の兄弟姉妹にもたくさんお祈りして頂いていたと聞いております。この救いの恵みに留まり続け、どこに住んでも私たちの神様に繋がりたいと心から願うものです。(現在東京在住) ■



ハリウッドと聖書、ついでにNHKとクリスチャン

立石尚志

●封切り3日目の日曜午後、一人でラッセル・クロウ主演「NOAH」を見てきた。墮落した人間社会の中でおも創造主に忠実に歩もうとするノアとその家族、箱船の建造と反対する人々、監督ダレン・アロフスキーが描き出す「黒と灰色」を基調とした洪水前古代社会はさすがハリウッド、それなりに見応えがあった。題材であるはずの聖書の記述から離れる部分も多々あったが、墮落した世を生き抜かなければならなかったノアを実際に描こうとしたなら、案外、ラッセル・クロウが演じた強いノア…グラディエーター・ノアのようになったかも知れない、と思わせるところがあった。

●一方2月末に封切りになったのが「SON OF GOD」。聖書が伝えるイエス・キリストのストーリーそのものである。昨年テレビ放映された「THE BIBLE」という10回のミニシリーズの中のイエス・キリストを扱った5回分を映画に拡張したものであるが、こちらはマーク・バーネット/ロマ・ダウニー夫妻がプロデューサーである。バーネットはSURVIVORやTHE APPRENTICEなど数々の人気番組を手がけてきたハリウッドの人気テレビ・プロデューサーであるが、夫婦共、熱心なクリスチャンであり、聖書の話そのものをスクリーンに持って来る、というのが彼らの狙いであったとのこと。ちなみに女優であるロマ・ダウニーはイエスの母マリア役として登場する。

●SON OF GOD, NOAHにとどまらず、ハリウッドからはこれからモーセ物語「EXODUS (出エジプト)」、また「MARY (キリストの母マリア)」(来年イースター封切り予定)と聖書を題材とした映画が続く予定である。テレビでも現在、全員ひげ面のロバートソン一家の毎日を紹

介するA&Eネットワークの「DUCK DYNASTY」が超高視聴率を続けている。番組の中で彼らのキリスト教信仰は「そのまま」描かれている。そのような中、TIMEやNYTIMES等で評論家たちは世俗化とキリスト離れが進んだ現代アメリカにおいて「なぜ今、宗教もの？」という命題を盛んに論じている。やはりアメリカのDNAにはキリスト教がしっかり入っている、その存在を否定する力が働くと、パネのように戻って来るのかも知れない。

●一方、日本でも昨年の「八重の桜」、今年の「軍師・黒田官兵衛」とクリスチャンが主人公である大河ドラマが続いている。「八重の桜」の前半は忠義、誇り、復讐等のテーマが渦巻いているのだが、後半にキリスト教が入ってくると、赦し、和解、平和への希求、と大きくテーマが変わる。新しい連ドラ「花子とアン」の主人公「村岡花子」もまたクリスチャンであるが、これらの人々の信仰がドラマの中でどう描かれるかはともかく、こうしたクリスチャンたちが日本の政治、文化に少なからず貢献してきたわけであり、それを無視して日本は語れないという現実があるのである。

●最後、もし仮にNHKが「敬天愛人」で知られる「西郷隆盛」をドラマ化するとしたら、やはりキリスト教抜きには語れないだろう。鹿児島西郷南洲顕彰館館長である高柳氏は、「西郷自身が聖書を教えていたという言い伝えもあります。晩年は、間違いなく信じていたでしょう」と語っている(いのちのことは社「聖書を読んだサムライたち」より)。著名な人々を愛と正義の行動へと引き立てた聖書の言葉を学ぶ時、私たちもまた、神に用いられる人になれる事を覚えたい。

2014年 春の集会・行事予定

※ 下記以外にも週の間に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝/10:00~11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。ベビーシッターも致します。
礼拝後 グループ会/12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれ、分かち合いの時を持ちます
- ★ ウェルカム礼拝/毎月最終日曜
- ★ 祈禱会/水曜日 10:00~12:00

【各種集会】

- ★ ハリソン 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所:ハリソン長老教会
- ★ スタンフォード 聖書を読む会
第二第四水曜午後 1:15 場所:井上宅
- ★ ハートフォード 聖書を読む会
隔週月曜午前 10:00
毎週木曜午前 場所はお問い合わせください

- ★ グリニッチ 聖書を読む会
次回ウェブでご案内します
- ★ グリニッチ グリニッチ家庭集会
次回ウェブでご案内します
- ★ マウントキスコ 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ ビジネススピーブル・パイブル・フェローシップ
金曜日 7:45pm 場所:教会図書室

● ウェルカム礼拝 4/27(日) 10:00~11:30

ウェルカム礼拝は初めて礼拝に来られる方、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容で構成しています。

● ファミリー・イースター・セレブレーション! 4月20日(日) 午後1時~3時

大礼拝堂でのイースター礼拝後、楽しいエッグカラリング、大エッグハント、楽しいおやつがあります!

● ドクター和泉による「春の健康講座」4月22日(火) 午前10時「どうして生理前にイライラするの?」

5月20日(火)は「アレルギー、花粉症について」★役に立つ講座です!ぜひお誘い合わせの上いらしてください!

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、牧師 立石尚志

c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com

《問い合わせ》教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX(203)531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

